生きる

子どもの幸せ願い23年

個人誌「銀河通信」発行　樋口　みな子さん（62）

Ａ４判の不定期発行個人誌「銀河通信」を創刊して23年。気がついたら167号になっていた。

創刊は1988年7月。独身時代に関わっていた自然保護団体「大雪と石狩の自然を守る会」の仲間と富良野岳に登った感想や自宅の庭で星を見た話を手書きでつづった。

「始めたころは、長男や家族の話が多く、友人たちに郵送していました」。号を重ねるうちに、自然環境、平和、原発問題など、子どもたちの幸せを願うテーマに関心が高まり、90年1月には、家族で沖縄旅行をした際、基地の様子を「沖縄戦跡ルポ」として書いた。

それが労働・住民団体、個人の新聞が出来栄えを競う「全国新年号機関紙誌コンクール」で優秀賞を受賞。「思いを伝える文章を書き続けたい」と意を強くした。

当初2ページだったが今では8ページ。心に響く本や映画、イベントなども紹介している。コピー印刷でも郵送経費を払う定期購読者が250人となり、4年前からインターネット配信も始めた。

文章を書くことが好きになったのは小学生のころ。営林署勤務の父は転勤族だった。「転校を繰り返していたから、なかなか友達ができなくって」。放課後は図書館で本を読んだり、感想を書く時間が楽しかった。先生に作文を褒められたこともあり、見たこと感じたことを、文章で表現することが好きになっていった。

多感な中学時代、「アンネの日記」を読んだ。アンネの観察力と批判力は、「銀河通信を制作するうえでの物差しになっている気がします」。

最近は登山リポートが多く、3年前には、日本山岳会のヒマラヤ環境調査隊に参加した体験記を掲載。高山植物の盗掘問題や自然環境の大切さを伝えている。

「未来を担う子どもたちが安心して暮らせる地球を残したい」。願いを込めて星好きの夫と名づけた銀河通信。「読んでくれる皆さんがいるから続けられるんだと思います」

文・のしろや　秀樹（フリーライター）
写真・北山　勝章（フリーカメラマン）

ひぐち・みなこ　1949年、日高管内平取町生まれ。東京の専門学校を卒業後、旭川医大病院で臨床検査技師として働く。85年、結婚を機に札幌へ移り、「知里幸恵記念館」設立運動に参加する。現在「北海道高山植物保護ネット」「森と川を語る会」会員。江別市で夫、長男と３人暮らし。

これからも主婦業の合間に自分の言葉でつづっていきたいと話す樋口みな子さん